

EDELWEISS

クリスマス・マーケット

2023年も残すところ、あと1ヶ月弱となりました。

街中はクリスマス・イルミネーションが灯り、それを見ながら寒空の下を歩くと、少しはホッカリ温まる気がします。去年はコロナ禍の後、久しぶりの開催でしたが、今年はもっとパワフルです。車窓から眺めるだけでも、お祝い気分が肖って暗い冬を乗り越えましょう。

気分だけでは温かくなれない時は、グリーンワインの出番！最近では日本でも「ホットワイン」を飲めるお店が増えてきたそうですね。風邪も予防してくれるとか…。古代ローマ時代から飲まれているこのワイン、ヴェルディ最後のオペラ《ファルスタッフ》でも、同じ文面のラブレターをもらった2人の女性に返しされ、びしょ濡れになった主人公が、「Vin caldo」と注文して笑いを取ります。屋台で見かけたら、「風邪ひかないため！」なんて言い訳しつつ、飲みましょう！

そして、サンタさんの運転、天使が車掌さんのMärlitramを街中で見かけると、なんか嬉しくなります。子供達が小さかった頃、さくら幼稚園の年間行事で、毎年乗車する子供を見送って一息ついた記憶が蘇るからかしら。日本の文化的行事も、スイスの風習も、両方教えてくれた「さくら幼稚園」が34年間の保育を経て閉園、11月12日にスイスでは初めての同窓会が開かれました。日本とスイスの文化を背負って生きていく子供達の情操教育を担って下さった事に感謝しつつ、今年もMärlitramを眺める若者や父兄が多くいることでしょう。

世界ではクリスマスなどと口に出すのも憚られるような惨状が続いています。平和な国にいても、大変な状況の方もいらっしゃるでしょう。それぞれが、今あるものに感謝して、何かを周りにお裾分けして、少しでも平和な世の中を目指したいものです。(SN)



Weihnachtsmarkt



JCZイベント、今月はそんなクリスマスマーケットをご一緒に散策します。

P7にある詳細をご覧の上、お申し込み下さい！忘れられないクリスマス・マーケット・ツアーになるかも知れません。

新年会は年明けすぐに予定されています。こちらもP7をご覧の上、スケジュールを空けておいて下さい。新年早々案内状がお手元に届く予定です。

皆様にお目にかかれるのを、スタッフ一同楽しみにしています！



- 巻頭文
『死生観を定めて生きること』 青砥 玄(会長)
- 私のイチオシ、シェアします！ Vol.40
『身近な観察のおすすめ』 吉田 友秀
- スイスの金融事情 Vol.4
『変わらぬ資産形成への道(1)ー昔も今も』 長田 忠雄
- チューリッヒの建築散歩 Vol.30
『Málaga to Granada (マラガからグラナダへ) 番外編その1』 ロイバー・ユカ
- KETTE (会員の輪) Vol.173
住村 奈緒さん (チューリッヒ在住)

人は無限の可能性を持ってこの世に誕生するといわれています。にもかかわらず、往々にしてその隠れた可能性を引き出すこともなく、自分は平凡な人間だ、駄目な人間だとか、能力が無い人間だと自己規定し、諦めてしまっている人が多いのではないのでしょうか

私達の中に眠っている能力、隠れた可能性を開花させる根本的かつ確実な方法があるのです！と訴えている、心理学者の野口嘉則氏は、潜在能力を開花させる方法は「ある観点を定めて生きる」ことだと、ネット番組で指摘しています。なかなか含蓄に富んだ内容ですのでご紹介いたします。

野口氏は、かつて自らの人生を変えた、ある人との出会いについて語っています。それが、シンクタンク・ソフィアバンク代表、社会起業家フォーラム創設者、多摩大学教授、グロービス経営大学院教授などをしながら講演・著作活動にも積極的な、田坂広志氏との出会いです。

田坂氏に「先生はご自分の能力をどうやって開発されたのですか？」と野口氏が質問すると「自分の潜在能力を目覚めさせて開発する最高の方法、それは“死生観を定めて生きる”こと。死生観を定めて生きると本当に眠っていた能力が目覚め、ピンチの時や大きな問題が起きた時に腹が座り、周りの人に対して優しくなることが出来るのです」と答えられています。それではその死生観とは何でしょうか？ 死生観とは「自分の命が有限であることを意識することで確立される人生観」別の言い方をすると、「死を深く見つめることによって定まる覚悟」だと田坂氏は言います。

戦後、日本国土の多くが焼け野原となり国際競争力など全く無い状態でした。そんな中から多くの優れた経営者が現れ、産業を興し経済復興をとげ、日本は経済大国となってゆきました。その立役者となった優れた経営者、大成した経営者の多くが死生観を持っていたのです。

当時こんな言葉があったそうです。「経営者として大成する者は次の3つのいずれかを体験している。“大病・戦争・投獄”」。死を覚悟するような大病を患うとか、戦地に赴くような経験とか、あるいは投獄体験です。そのいずれかを体験している者が、経営者として大成すると言われているそうです。

この3つに共通していること、それはいずれも死をリアルに意識せざるを得ない体験なのです。その時、人間に死生観が定まる。すると眠っていた能力が目覚め、それが発揮される方向に動いていくというのです。

例えば、経営の神様と言われた松下幸之助氏は、8人兄弟の末っ子で、子供の頃に兄弟を5人と父親を結核やインフルエンザで亡くし、身近な家族の死を6回も経験しています。さらに本人は、当時は不治の病といわれた肺炎カタル（結核の一種）を患います。

昨年亡くなられた、京セラやKDDIの創業者・稲盛和夫氏は13歳の時に結核を患い、戦時中空襲で実家を消失しています。他に若い頃結核になった名経営者は、アシックス創業者の鬼塚喜八郎氏や、ヤマト運輸の小倉昌男氏です。小倉昌男氏は、あの大和運輸の創業者の息子で、宅急便の生みの親と言われています。小倉昌男氏がいなければ「魔女の宅急便」という映画も生まれなかったでしょう。また、ワコール創業者の塚本幸一氏は、戦争時ビルマ戦線に従軍し、インパール作戦に参加し生還しています。このインパール作戦は、日本兵のほとんどが死亡してしまった史上最悪の作戦と言われています。これらの方々は、大

死生観を定めて生きること

巻頭文：青砥 玄（会長）

病だとか戦争などを通して、死に直面せざる得ないような経験をされることで、死生観が定まったようです。

前述の田坂広志氏は32歳で医者から癌を宣告され「余命もう長くありません」と言われます。死への恐怖と絶望感の中、救いを求めたある有名な禅寺に行き、自分の状況を訴えました。するとその禅師に「そうかもう命は長くないのか。だが1つだけ言っておく。人間死ぬまで命はあるんだ！」と一括され、この言葉で田坂氏は目覚めます。今、自分は確かに生きている。なのに自分はいつ死ぬのだろうか、未来を心配し、過去を悔いることに時間を浪費していた。ああ自分は生きながら死んでいたのだ、と気づいたそうです。その時、田坂氏は覚悟を定め、明日死のうが明後日死のうがそれが天の定めならば仕方がない。しかし今をどう生きるかは自分が決めることができる。今日という1日が与えられているのなら、今日という1日を生きよう、悔いのない今日を生きよう、と覚悟を決めたそうです。これが田坂氏の死生観が定まった瞬間でした。それ以来、田坂氏は毎日、今日が人生最後の1日かもしれないという思いで1日をスタートし、気が付いたら30年以上の歳月が経っていたというのです。

田坂氏はさらに自著で、

- 1：人は必ず死に、人生はいつか必ず終わるという真実
- 2：人生は1度しかないという真実
- 3：人はいつ死ぬかわからないという真実

これら3つの真実を自覚することで、死生観は定まると説明されています。

インド独立の父と称されているガンジーは、「永遠に生きると思って学びなさい、そして明日死ぬと思って生きなさい」と言っています。何かを学ぶにあたっては遅すぎることはありません。人生これから長いわけですから、何でも学びたいことは貪欲に学びなさいということです。そして「明日死ぬと思って生きなさい」。これはまさに死生観が表れた言葉です。哲学者のハイデガー曰く、「死を意識することで生が輝く」。ラテン語に「メメント・モリ」という言葉があります。これは「死を想え」とか「死を忘れるな」という意味のラテン語です。これもまさに死生観を持って生きるという意味の言葉のようです。

死生観というものを定めると、まず感性が研ぎ澄まされます。例えば今日が最後の1日かもしれないと思ったらどうでしょう？ いつも見る景色も、より輝いて見えませんか？ ああこの景色を見るのもこれが最後かもしれないと思って見てみる。いつも会っている人と会っても、これが最後かもしれないと思ってその人と過ごしてみる。するとかけがえの

ない時間となります。つまり死生観を定めると、今この瞬間を深く味わう心境になり、感性が研ぎ澄まされるのです。これは古くから日本で言われてきた、一期一会という言葉の意味でもあります。

以前、野口氏が奥様と一緒に主催していたセミナーで死生観を育む講座があり、こういう問いを参加者に投げかけたそうです。「もしもあなたの命があと3日しかなかったら、あなたは何をしますか？」その答えを考え、書き出してもらったのです。結果は、大切な人に日頃伝えていないメッセージを伝えたいという人が圧倒的に多いそうです。ある人は両親に「産んでくれて育ててくれてありがとう。たくさん反抗したし、ひどいことも言ったけど、お父さんお母さんの子に生まれて良かったと思っています」と伝えたい。ある人は自分のパートナーに感謝の気持ちを伝えたい。ある人は喧嘩して連絡が途絶えてしまった友達に、一言謝りたい。そういったことをたくさんの方々がおっしゃるそうです。

人は人生が残り3日しかない意識すると優しくなるようです。感性が研ぎ澄まされてくるのです。そしてその3日間、素晴らしいことをやろうとします。けれども残念ながら多くの人は、人生が3日しかなかったらやることを、一生かけてもやらないのが現実です。人生が有限であることを忘れているから、つまり死生観を忘れてしまっているからなのです。

現代人は死生感を持たなくなったと言われます。それは死というものをリアルに意識する機会が少なくなったからです。昔は大家族で、ほとんどの人が自宅で死を迎えていました。誰かが亡くなる時は、家族全員が自宅で看取りました。別れの言葉を交わしたりすることも普通でした。おばあちゃんが息を引き取りそうな時に、「おばあちゃん聞こえる？ おばあちゃん作る味噌汁大好きだったよ。おばあちゃんが編んでくれた手袋あったかかったよ」と言葉をかけながらの別れが普通でした。当時の人は子供の頃からそんな経験を何度かしながら、死の重みを心に刻んだのです。

現代は核家族化が進み、都会に出ている人も多いため、実際自分の祖父や祖母が田舎で亡くなった時に立ち会えなかったという方も多でしょう。また今は立ち合ったとしても、自宅ではなく病院で、亡くなる人の鼻や口にはチューブが差し込まれていて意識がないのに延命措置が取られ、そして亡くなる瞬間、遺族が見ているのは亡くなる本人ではなく、心電図モニターだったりします。つまり死に行く人との触れ合いの機会が無くなっているのです。現代の子供たちが死というものに接するのは、ゲームの中で敵を倒した時。あるいは映画やアニメの中でヒーローが剣で悪い奴らを切っていく、痛くも痒くもない偽物の死なのです。現代の子たちは命の重みが分からなくなったと言われています。悲しい現実です。

今日という日は2度とやってきません。そして今という時間も2度とありません。あなたの人生において本当に大切なこと、それをやる時は、今しかないのです。是非今日あなたにとって大切な人に対して、何か伝えたい、してあげたいことがあったら実行してみようではありませんか。

ご意見・ご質問は青砥まで
gen.aoto@toyota.ch

スイスに来て半年が過ぎ、益々スイスが好きになってきています。こちらに来る前の私のスイスのイメージは、壮大な山と自然、美味しいチョコレート、アニメのハイジといったところでした。それ自体は間違っていないと思うのですが、それとは別に実際に暮らしてみても感じたことをお伝えします。

ナメクジ天国 (娘曰く、地獄)

スイスの壮大な山を見るためには、視線を上げるのが好ましいとは思っています。しかし、山ばかり見ているとナメクジを踏みます。もはや私にとって、スイスと言えばナメクジです。日本にもナメクジはいますが、梅雨の時期ですらそこまで数が多いとは思えず、また体つきや色も控えめです。一方でスイスのナメクジは自己主張が激しい体つきで、雨後の道路では数メートルおきにお会いするほどの数です。毎日見ていると、疑問が湧いてきます。ご存じの方教えてください！



- ・ナメクジの赤ちゃんを見かけないのはなぜか。道路デビューの年齢がある？
- ・なぜわざわざ道路に出てくるのだろうか。
- ・なぜあんな色や形(ツルツルな部分と筋が入っている部分がある)なのか。
- ・カタツムリより圧倒的に数が多いのはなぜか。
- ・塩で溶けられないが、なぜか。
- ・家の壁には登ってこないように見えるが、なぜか。
- ・冬の間はどうしているのか。寒いし、乾燥もするだろうに。
- ・水が好きだと思われるが、噴水に大量発生しないのはなぜか。
- ・日本より多く見かけるのはなぜか。
- ・気温が低くなった今、一斉に見なくなったのはなぜか。

身近な観察のおすすめ

吉田 友秀



ナメクジ、不思議です。

クモ天国 (娘曰く、地獄)

ナメクジばかり見ているのもどうかと思い、少し視線を上に移してみますと、クモも結構多いのではないかと感じます。屋外でも多く見かけますが、家の中でもよく見かけます。見かけるたびに退治しているのですが、それでもなかなかいなくなるため、どこから入ってきているのだろうと不思議に思っています。私の見かけた範囲では、日本より小さいサイズのクモ(全長2cmくらいまで)が多い気がしています。クモはクモの巣を一生懸命張って、それに引っかかる獲物を待っているわけですが、巣を張る場所はどのように決めているのか、受け身の獲物の取り方でやっていけるか、など(人間でも蜘蛛のように受け身でやっていける方法があるのか、クモはかなり省エネで生きているのかなど)、不思議に思っています。

飛行機雲天国

ナメクジやクモばかり見ているのもどうかと思い、空を見上げてみますと、飛行機雲が目にとまることが多いです。これを書いている秋は特に多い気がしています。飛行機雲は、日本ではたまに見かけてラッキーといったところだったのですが、スイスでは飛行機が飛んでいる時間帯はいくつもの飛行機雲を同時に見かけることも多く、気象の関係なのかな

と思っています。飛行機雲が同じルートに何本も残っていることから、航空機は同じようなところを通っているのだなと思って見えています。



果物天国

最後に視線を中間の高さに移しますと、季節が秋ということもあり、そこかしこにりんごや栗などの果物がなっているのを目にします。私の住んでいる地域ではりんごの木が多く、道路にりんごが落ちていますし(ナメクジが食べていることも)、赤い木の実(なんの実かは不明)を摘んでいる人を見かけることもあります。花の無人販売所もよく見かけますし、スーパーでは多くの種類の果物が売っているように思います。果物や花と人との距離が近いと感じることも多いです。余談ですが、以前に住んでいた和歌山では、みかんが川に流れているのをたまに見かけました。



ナメクジやクモ、飛行機雲に限らず、お金をかけずとも楽しめることがスイスには多くあると感じています。冬にはまた違った楽しみがあるのだと思います。少し近場で、色々見つけてみませんか？

ご意見などはこちらへ
Tomohide.Yoshida@climeworks.com

大使館関係のお知らせ



領事出張サービス

2024年2月 チューリッヒ
日時：2024年2月17日(土)10:00 -12:00, 13:00 -15:00
場所：チューリッヒ日本人学校日本式2階音楽室
住所：Florastrasse 18, 8610 Uster
申込締切：2024年2月1日(木)必着

詳しくはHPをご参照下さい。
https://www.ch.emb-japan.go.jp/itpr_ja/ryojisvc.html

GlobAS Relocations Europe GmbH

スイスからのお引越しはグローバスリロケーション ミュンヘン支店にお任せを！創業20年以上、8名の経験豊富な日本人スタッフによるお引越しサービス。ビデオ下見からの見積り作成(無料)が可能となりますのでまずはお気軽にご連絡ください！



HP: <http://www.globas-relo.com>
Email: zurich@globas-relo.com
Tel: +49 (0) 89-189-386-21 (日本語直通) 担当: 三嶋

スイスの 金融市場

Vol.4

変わらぬ資産形成への道 (1)ー昔も今も

長田 忠雄

ここまで、小さな金融大国スイスの金融事情を述べてきましたが、話の流れで投資の世界、昔も今も変わらぬ資産形成への道、と題して数回に分けて述べてみましょう。

投資の神様、或いは長期投資の巨匠といえば、言わずもがなのウォーレン・バフェット氏でしょう。1960年代半ばにパークシャー・ハザウェイという投資会社を始めてから現在までの値上がり、ざっくり3万倍（仮に10万円を投資してたら30億円にもなる）という前代未聞のパフォーマンスを達成し、現在でもその株価は着実に右肩上がりが続く、というわけで、この人の投資術に学ばない手はありません。現在93歳と言う高齢ながら、矍鑠（かくしゃく）として会長兼CEOを務め、自らの理念を世界に発信し続けるスーパー爺です。

去年この会社が初めての外国株投資として選んだのが日本株の五大商社ということで、随分と話題になりましたが、当時は誰も見向きもせず、万年割安株というレッテルを貼られていた銘柄です。今年の春にバフェット氏が来日し、さらに商社株を買い増す意向を表明したことで世界中から買い注文が殺到、日本株全体の上昇に大きく貢献したことは皆さんもご存知の通りです。商社の株価は昨年の買い付け価格からほぼ倍になり、加えて高額の配当収入（商社株の配当利回りはトップクラス）を得ただけではありません。買い付け資金はドルを円に転換して投資、なんていう間抜けなことを神様はしませんでした。円建て外債（別名サムライ債）を発行してほぼゼロに近い円金利で資金調達、その借りた円が今日に至る円安で対ドル150円まで来ているわけだから、30円以上の巨額の為替益まで載っている、となればもう「お見事！」と言うしかないでしょう。単に為替リスクを排除するためでなく、拡大する日米金利差による円安を見込んでの円資金の調達だったのでしょ。 「君ね、株式投資とはこうやるものだよ、分かったかね？」、と神様に諭されたようで、いつも高値掴みで塩漬け銘柄の多い私などは思わず「ハッハッ」と最敬礼したほどです。

こういうやり方に株式投資で心得るべき点が凝縮されているので、ポイントを整理すれば、1) 株価水準は人があまり注目して

いない安値圏である時を狙う、（株価が既に高値圏にある銘柄は避ける）、2) 会社の将来性をよく研究して長期投資に値するビジネスモデルであるかを見極める、3) 高配当が持続できるキャッシュフローや配当性向（当期純利益から配当に回せる割合）が遜色ないかを見極める、といったことが株式投資の基本だということをお話しています。

バフェット氏は自ら著書を著さない人ですが、唯一2008年に出版された『The Snow Ball』という本があります。これは当時、米モルガン・スタンレー証券で株式アナリストをしていたアリス・シュレーダーという女性アナリストが、バフェット氏から長期の密着取材を許されて口述筆記した大作です。百科事典ほどの重さで且つ分厚い本のため、本来ソファーにひっくり返ってしか本を読めない習慣がついてしまっている私は、この時ばかりは真面目に机に向かって読み進んだものです。バフェット氏の生い立ちから現在に至る、とても面白い読み物になっており、バフェット流投資の歴史や投資戦略の基本があちこちに散りばめられており、とても参考になる投資の教科書とも言えます。

The Snow Ballという表題にしたのは、投資の基本は、配当金等は再投資に回せばその「複利効果」はいずれ偉大な金額になる、という信念から、雪だるまを転がして行けばどんどん雪の玉が大きくなるのになぞらえている訳です。この長期投資による複利効果を実証したのが先に述べたパークシャー・ハザウェイの株価3万倍という実績で、この会社は一度も配当は出さず全て再投資を繰り返し、株式も現代のように高くなったからと言って株式分割を一度も行ったことはありません。（正確にはこれはClass Aと呼ばれるタイプの株で、その後一般投資家のために分割してClass Bという株も発行しています。）

バフェット氏の教師と言われる投資の師匠がBenjamin Graham (1894-1976)という著名な投資家で、「The Intelligent Investor・The Definitive Book on Value Investing」という有名な著書があります。この著書にも書かれていますが、バフェット氏がよく口にするのは、「人が貪欲に株を買っている時は常に警戒心を持て。逆に人が恐怖心に怯えている時こそ貪欲になれ」という、Grahamの教えを忠実に守っていることです。（耳が痛い。）投資の基本姿勢として今や言い古されている感があっても、いざ実践となると悲しいかな、そう簡単ではないのが人間の性（サガ）なのでしょう。（以下、次号）

BULLETIN BOARD

●日本人音楽家による室内楽の夕べ

12月2日（土）17時（先月号のKETTEでは日曜日となっております。謹んで再掲させていただきます。）

ロッシェニ・弦楽の為のソナタ、
シューベルト・ピアノ五重奏曲「ます」等
バイオリン：坪井悠佳、ピオラ：神谷タンナー未夏、チェロ：横田誠治、コントラバス：藤森志保、ピアノ：大橋雅子
Villa Irniger Schneckenmannstr. 8 8044 Zürich
入場無料、コレクテ、アペロ・ビュッフェ有
要予約・yukatsuboi@gmail.com 坪井 《坪井》

●チューリッヒ日本女声合唱団・団員大募集！！

ヤングパワーの新指導者・齊藤舞先生の下、一緒にハマりませんか！ぜひ見学にお越しください。
練習日：木曜日（隔週）9時半～11時45分
場所：Schulweg 6, 8610 Uster
連絡先：077-520-3370（ポツィーニ）
https://jfchorzh2018.wixsite.com/jp-frauenchor-zh 《Bozzini》

●世界のクリスマスカロル 最終回

2023年12月3日(日)17時開演
Villa Irniger Schneckenmannstrasse 8, 8044 ZH
ゴレイ由美 ソプラノ、M.Nussbaum ピアノ
10か国以上の歌&音楽と共に世界に旅だとう！
要予約 richi.irniger@bluewin.ch Tel. 044-2511425
Kollekte アペロ&Imbiss <ゴレイ> 《ゴレイ》

JCZ10月イベント 感想文

親睦会@Ninja Noodle



10月21日に行われた懇親会に参加して来ました。

今回はチューリッヒのヨーナにあるニンジャヌードルさんを貸し切って行われました。普段はアクティビティを行うイベントが多い中、美味しいお料理を食べながら会員の方々とじっくりお話しすることができる大変良い機会となりました。いつも思うのですが、日本人会の会員のみなさんは多種多様な経歴や趣味をお持ちの方ばかりで、お話を聞いて大変楽しく、いつも刺激を受けます。

ニンジャヌードルさんのラーメンもとっても美味しく、絶対にまた行きたいです。楽しい企画をありがとうございました！
(M.I)



日本が誇る指揮者、山田和樹さん@チューリッヒ！

去る10月23日、バーミンガム市交響楽団が、4月から首席指揮者に就任したばかりの山田和樹氏と共に、Migros-Kulturprozent-Classicsの招きでトーンハレにやってきました。以前当誌で連載した『音楽の処方箋』を読んで下さった方は覚えていらっしゃるかも知れませんが、2012年にジュネーブのスイス・ロマン管弦楽団首席客演指揮者となった機にインタビューさせて頂いたのですが、その後世界中から引く手数多の存在となり、10年以上を経てようやくチューリッヒで再会が叶いました。

バーミンガム市響は1920年に創設された「老舗」なのに、「指揮者と一緒に成長する」スタイルを掲げているため、歴代の首席指揮者は若く、40代の山田さんは「重鎮」の部類。演奏会の間も「カズキから沢山吸収するぞ〜！」オーラがピンピンの楽団員達でした。その楽しそうな様子は客席にも伝染し、幸せ感に満ち溢れたトーンハレでした。7月の日本ツアーが大成功だったのも頷けます！

ただ1つだけ、今でも魚の骨のように喉に引っ掛かっている事があります。ピアノ・ソロのファジル・サイが現在の世界情勢の煽りを受けてキャンセルとなった事です。トルコ人のサイはユダヤ音楽も情熱的に演奏しますが、本人のSNSでガザ攻撃に対し、ネタニヤフ首相、エルドアン大統領両者を強く非難したことに起因していると、東京新聞が掲載したそうです。山田さんもサイと共演したかったと吐露していましたが、スイス人ピアニスト、ルイ・シュヴィッツゲベルが代役を務め、サン＝サーンスのピアノ協奏曲第2番を熱く聴かせてくれました。



Migros-Kulturprozent-Classicsのご招待で、JCZからマエストロ山田にエールを送りに行きました！来年の別団体の演奏会に会員の皆様もご招待頂けます！

パレスチナ人が訴える「人間の尊厳」

ロシアがウクライナに侵攻した時、普通の平和な生活を突然奪われたウクライナ国民を憂いました。その後、大した訓練も受けず戦場に送られるロシア兵にも同情しました。そして突然襲撃されたイスラエル人犠牲者に、胸が痛みました。それでも、1948年以来「天井のない監獄」と呼ばれているガザを、故郷として守り続けて来た民間人を犠牲にして、何の解決になるのでしょうか。そして私達も、左の記事のファジル・サイのように、意見を述べた者が干される世界に、いつ飲み込まれるかわかりません。せめて自分の目で真実を見分けられるように、イギリス在住日本人がシェアしてくれた番組をご紹介します。

アーカイブ・シリーズ ガザに暮らして(1)ガザに“根”を張る

イスラエルによる地上侵攻が行われた2014年、番組はガザで人権侵害と闘う弁護士ラジ・スラーニさんに話を聞いた。直近のラジさんの声と共に番組をアンコール放送する。

<https://1drv.ms/v/s!AuPc-rQRu5Bk0DABWxtrzM0qbat>

「知らなかった、と言わせないために世界に発信している」ラジさんを直接助けることはできなくても、せめて私達も「知る」ことから始めていきませんか。

ヴァイオリニスト鈴木舞

スイス・ローザンヌに留学していたヴァイオリニストの鈴木舞さんが、コロナ禍後ようやく欧州の舞台に立ちました。ローザンヌの後には、ザルブルク、そしてミュンヘンでも研鑽を積み、今は日本を拠点に、遠くはチリなど、世界を飛び回っています。

11月5日、ミュンヘンのヘラクレスザールの中にはJCZ会員の姿もあり、首席指揮者フランツ・ショトキー自らが2000年に創設したダ・カーポ・ミュンヘン室内交響楽団をバックに、モーツァルトのヴァイオリン協奏曲第3番を聴かせてくれました。弓を押し付けられないに長いフレーズを保つ彼女の長所を発揮して、耳の肥えたミュンヘンの聴衆をも喜ばせていました。

同じスイスで時を過ごしたというご縁で繋がっていかれる、それも異国で頑張る日本人を応援する日本人会の存在意義かも知れません。



チューリッヒ日本人学校（全日校）小学部新1年生入学説明会及び体験入学会について

来春、小学校入学を迎えるお子様がいらっしゃる御家庭にお知らせいたします。保護者の皆様には入学説明会と授業参観、お子様には学校見学と体験を下記のとおり開催いたします。たくさんの御参加を心よりお待ちしております。

記

1. 対象 2024年4月に小学校入学を迎える児童 (2017年4月2日～2018年4月1日生まれ対象)
2. 日時 2024年2月2日(金) 13:30-15:30
3. 場所 チューリッヒ日本人学校 (SBB Uster 駅下車 徒歩10分)
4. 内容 保護者様 — 「入学説明会」「授業参観」
お子様 — 「学校見学」「学校体験」
5. 服装 動きやすい服装・体育館シューズ・水筒・ハンカチ
6. 申込み 参加御希望の方、及び御質問は1月26日(金)までに下記メールアドレスに御連絡ください。
7. その他 日時等に変更がありましたら、お申込みいただいた方に個別に御連絡いたします。

< Mail jszurich@bluewin.ch >

< 学校 Tel 044-941-1554 > 担当：堀 なおこ

★チューリッヒ日本人学校全日校とは…

- ・日本の教育課程に基づいた学習を、
- ・月曜日から金曜日まで、
- ・文部科学省から派遣された日本の教員が、授業を行っている学校です

チューリッヒ日本人学校補習校

毎週土曜日2時間の国語の授業、幼稚園から高等部まで一貫して楽しく学べ、読み書きをすることで話す力も伸ばします
作文・短歌・俳句・毛筆コンクール受賞者多数

**2024年度申請受付中
入学募集 (2024年4月入学)**

小学部1年 午前クラス・午後クラス
幼稚園 午前クラス・午後クラス
国際部 (日本語能力試験受験可) ※

- ・申請書をお送りください
- ・希望時間帯 (9時開始、11時開始、14時開始) がある場合 申請書の備考欄にお書きください
- ・クラス分けは2024年1月27日に行います
- ・クラスが成立しない場合、ご希望に沿えない場合があります
- ・各クラスとも定員に達し次第、順番待ちとなります
- ※国際部中学生クラス、高校生クラスについてはお問い合わせください

2025年度入園・入学申請は、お待ちください

幼・小・中・高 教員・代替教員 随時募集

スイスで国語学習に励んでいるこどもたちに経験を生かして貢献したいと思われる方、コミュニケーションを大切に、共同できる方
履歴書をお送りください

- ・毎週土曜日2～4時間の国語の授業
- ・教員免許状のある方 (どの強化でもかまいません)
- 塾で教えた経験のある方
- ・労働許可がある方に限ります

問い合わせ先：Japanische Schule (Hoshuko)

TEL : 044-941-1554 電話での問い合わせ：土曜日
Email : hoshukoz@hotmail.com
HP : www.jszurich.ch



Vol.30 番外編その1

Málaga to Granada
(マラガからグラナダへ)

アルハンブラの夜

東京の大学で建築を勉強していたとき、ヨーロッパの建築史で勉強したスペインの南にあるというアルハンブラ宮殿を一度訪ねてみたいと思っていた。

偶然にも、この夏グラウビュンデン州に住む友人を訪ねた際に、一度グラナダ行ってみたいねという話になって、あれよあれよという間に、彼女とその息子と一緒に旅行の計画を立てることになった。10月中旬のスイスの学校が秋休みの頃がいいというので、早速チューリッヒからスペインのマラガまでの直行便を予約して、それから毎週のように連絡を取り合いながら、旅行の計画を立てた。

スペインに詳しいスイス人の友人が教えてくれたルートは、マラガからグラナダ、そしてコルドバ、セビリヤまで足を伸ばし、最後にロンダという小さな断崖絶壁の上に聳える街を訪ねて、再びマラガに戻るというコースだった。

今回の建築散歩では、この旅行のマラガとグラナダの部分を紹介する。

金曜日の夜9時にチューリッヒを飛び立ち、わずか2時間半で、真夜中のマラガに到着。滞予定先のアパートのオーナーがわざわざ自ら空港に車で迎えに来てくれたので、道に迷うこともなく無事に街中のアパートに到着。綺麗にリノベーションされたアパートは真新しいキッチンもついた過ごしやすいく空間で、街の中心地に近く観光に格好の立地条件だった。次の日、アパート近くの広場に面したカフェで朝食を食べ、マラガの港町を見下ろす小高い丘にそびえ立つ、アルカサバ(Alcazaba)①と呼ばれる中世イスラム時代の砦を目指して坂道を登る。スペインらしい乾いた赤土色の砦の周りには高い塀が巡っており、元々は海からの外敵を見張る意味があったのだろうが、今は観光客のための遊歩道となっている。弧を描いたマラガの港と海辺が360



グラナダの大聖堂内部

度のパノラマで眺めることができた。砂浜はもう目と鼻の先のように見えたので、砦から一番最短距離となる坂道を下りていって、午後は水着に着替えてビーチでひと泳ぎ。雲ひとつない晴れ渡った空に、海風も気持ちよく、今回の旅行は幸先が良い。泳ぎ疲れて砂浜で寝そべっていると、夕刻が迫ってきたので、海岸沿いを港の方へ歩いて行くことにする。港のpromenadeでショッピングして、さらに旧市街のカテドラルの近くまで歩いて行って、その大聖堂の前にある広場に面したレストランで夕飯にする。久々の新鮮な海の幸を堪能して、友人親子も大満足。

次の日、グラナダへの列車の出発時間まではまだ時間があるので、3人はそれぞれ自由行動に決めた。高校生の友人の息子はおばさん達の建築散歩に付き合いきれないので、私は一人ピカソ美術館(Museo Picasso)②を目指した。マラガの街のあちこちに、ピカソの有名な絵によく似たグラフィティが建物の外壁に描かれているのを見て、ここが彼の生誕の地であることにも納得。人混みの美術館でピカソの様々な絵を見て、歩き疲れて外に出ると、そこには巨大なローマ劇場③の遺跡が現れた。昨日はアルカサバに夢中で通り過ぎてしまったが、お昼過ぎの時間にストリートミュージシャンがフラメンコに合うようなメロウなギターを奏でていて、観光客で賑わう広場には人だかりができていた。

午後3時過ぎに、マラガから特急列車を一つ乗り継いで、グラナダ駅についたのは夕方5時半ぐらいだった。スペイン語もできてスマホも使い慣れている友人の息子は、初めて降りたグラナダの駅に迷いもせずに、「バス停こっち、ここでおりたらホテル近い」と、上手な日本語で母と友人の私を案内してくれた。私たちが予約した次のアパートは観光名所の大聖堂にも近く、旧市街にアラビア風のお店がいっぱいある地区だった。建物の入り口を入ると、まるでお化けでも出てきそうな不気味なインテリアと、少し前に流行ったインダストリアルデザインを取り入れたちょっと不思議なアパートだった。中庭を囲む階段を上っていくと、一番上の部屋が私たちの予約した部屋で、そのさらに上には屋上テラスがあって、茶色の瓦屋根が連なるグラナダの街と、近くの大きな大聖堂のドーム屋根が見えた。

夜遅くなってから、アパートに近いCalle de Elviraという道を歩いて、レストランやお土産物屋さんが並ぶ参道のような坂道(Caldereria Nueva)に出た。ここはイスタンブールやモロッコのマラケシュで見たスークのようなイスラム独特の商店街風で、歩いているだけでも楽しい。オリエンタルな雰囲気のある夜の街を、レストランや雑多なお土産を売る店をひやかして歩く。



アルバイシンの路地

モロッコ料理でお腹がいっぱいになった後は、アルバイシン(Albysin)④と呼ばれる昔のアラブ人街を丘の上に向かって、ラピリンスのように張り巡らされた石畳の坂道と、白壁の道を上っていく。細い路地に人気がなくなってきて、迷ったかなと思うと、どこからともなく観光客らしき人が上の方から下りてきて、この道であっていると感じづく。そんなこんなで30分ぐらいは夜の散歩を楽しんだらどうか。やっと視界が開ける場所に出て、あっと気づくと、そこには夜の闇に茶色い巨大な城が、川を挟んで向かいの丘の上にぽっかりと浮かんでいる。サン・ニコラス広場⑤は、ちょうどアルハンブラ宮殿の真正面に見える高さで、少し離れた位置にあるので、宮殿の姿が写真にうまく収まるので観光客が集まるわけだ。もう夜も9時は過ぎていたと思うが、多くの人が広場に集まり、宮殿を背にギターの弾き語りをするラテン系の3人のミュージシャンに拍手が起こっていた。千年以上も前から時間をかけて建設されたアルカサバ(砦)とアルハンブラ宮殿⑥の姿が、鬱蒼とした夜の森の上にぼうっと船のように浮かび上がるようにライトアップされて、悠久の歴史を静かに物語っているようで、なんと荘厳な感じがした。

実はこの時、私たちは無謀にも入場チケットを予約せずに旅行に出たので、このグラナダ滞在中にアルハンブラ宮殿を間近で見ることができなかっただけで、だからかもしれないが、この生暖かい夏の終わりの夜に浮かぶ建築の姿が、一層美しいものに思われた。(次回に続く) ©2013 Yuka Räuber



1 Granada Station, 2 Catedral Granada, 3 Caldereria Nueva, 4 Plaza San Nicolas 5 Alhambra

- ① alcazabamalaga.com 参照
- ② museopicassomalaga.org 参照
- ③ andalucia.com/cities/malaga/teatro-romano.htm
- ④ グラナダは中世の時代約800年近くイスラム教徒の支配下にあつて、それが1492年のグラナダ陥落によってキリスト教徒のカスティーリヤに制圧された。この頃からAlbysin地区は、ユダヤ人やアラブ人がもともと住んでいた土地を追われて移り住んだという。
- ⑤ Plaza de San Nicolas この広場は、アルバイシン地区の高台にあり、アルハンブラ宮殿がよく見える見晴台である。
- ⑥ アルハンブラ宮殿はイスラム建築の傑作とも呼ばれ、13世紀初頭に栄えたイスラムのナスル王朝時代に最盛期を迎えたとされる。アルハンブラ宮殿の中でもこのナスル朝王宮部分が、特に繊細で美しい建築で有名。アルハンブラ宮殿、アルカサバと、このアルバイシン地区はユネスコの世界遺産に登録されている。



JCZ12月イベント

クリスマスマーケット
散策



クリスマスマーケット、ついつい一人では行きそびれたりしがちです。みんなでワイワイと訪ねてみませんか。中央駅で待ち合わせをして、そこから町を散策しながらオペラハウスの前のクリスマスマーケットまで。何か温かいものをいただいたりして、16時半ごろの解散の予定です。雨天決行ですが、その場合は、外を散策するかどうか、天候次第で考えましょう。

日時：12月7日(木) 14時～16時半

集合場所：チューリッヒ中央駅、大時計の下 (Treffpunkt)

お申込：JCZ HP イベント申込フォームより、

またはメールでkikaku@japanswiss.chまで



アフタヌーンカフェのお知らせ

今年も残りわずかとなりました。何かとせわしない年の瀬ですが、カフェで一息、おしゃべりしませんか。どなたでも歓迎です。

日時：12月14日(木) 14:00-16:00

場所：チューリッヒJelmoli 3Fのレストラン

申込：JCZ HP イベント申込フォームより

またはメールにて kikaku@japanswiss.chまで



JCZイベント告知

2024年度JCZ総会・新年会

2024年1月28日(日) 於 Hilton Zurich Airport

開場 11時 アペロ、12時半 年次総会、12時50分 新年会開会 (16時半頃終了予定)

今年の1月は久々のお集まり、ありがとうございました。2024年も総会・新年会を開催計画いたします。年明けに参加申し込み方法を記載した案内状をお送りしますので、予定を空けておいて下さい!

エンターテインメントは先月号のKETTEでも耳打ちした通り、チューリッヒ在住ヴァイオリニストとしてご活躍中の坪井悠佳さんと、デュオ20周年を迎えたピアニストの大橋雅子さんに、コロナ禍の一昨年に生誕100周年を迎え、十分に祝えなかったアストール・ピアソラのタンゴで酔わせてもらいます!

今年同様、受付時に配られる番号で福引をします。(なくさないでくださいね!)

景品、大歓迎です。提供できる方、企業や団体の皆様は青砥会長までご一報下さい。ご芳名を記載した賛助団体一覧表を会員全員に送付、新年会時にも配布させていただきます。

明るい2024年を迎えられますよう、企画準備いたしますので、宜しくお願いいたします。

JCZ主催

チューリッヒ日本人会JCZ主催
書き初め・餅つき大会について

- 開催日 令和6(2024)年1月7日(日)
- 開催時間 受付開始 12時00分
書き初めの部：12時30分から13時30分
餅つきの部：13時30分から15時00分
- 開催場所 チューリッヒ日本人学校体育館
Florastrasse 18a, 8610 Uster

- 参加対象 チューリッヒ日本人会 会員の皆様
- 会費 大人 10 CHF
子ども 5 CHF (3歳以上 20歳未満)
- 申込締切り

令和5(2023)年12月10日(日)までに、申込書を郵送又は、E-mailにチューリッヒ日本人学校宛てにお知らせくださいますようお願いいたします。

※詳しくは、今号にとじ込みました別紙「書き初め・餅つき大会開催の御案内」を御覧ください。

【子供のためのチューリッヒ映画祭】

12月2日(土) 10:00~15:45 Vulkonstr.120, 8048 ZH
https://zff.com/de/kinder/samstag-2-dezember-2023/

【Kyoto Jazz Massive】 沖野修也、好洋兄弟が30年以上前に結成したバンドが15年ぶりにヨーロッパの舞台へ

12月28日(木) 20:30
Moods im Schiffbau Schiffbaustrasse 6, 8005 ZH

【大晦日・Silvesterzauber】 <http://www.silvesterzauber.ch/>
12月31日(日) 14:00~3:00 花火 0:20~0:35
Bellevueplatz, 8001 ZH

【アニメ・シンポ・ショウ 38サムライ】 <https://38samurai.com>
1月10日(水) 20:00 Lindenplatz 5, 8048 ZH
Best Western Hotel Spingarten Neues Theater Spingarten

【Lindt Home of Chocolate】

サミクラウス 12月2, 3, 6日 10:00 -
テディ探し 12月23, 24日 10:00~19:00
Schokokadenplatz 1, Seestr.204, 8802 Kirchberg ZH



【クリスマスマーケット】

- ・Weihnachtsalle Zürich ~12月23日 Europaallee, 8004 ZH
<https://www.weihnachtsallee.ch/>
- ・Weihnachtspiramide ~12月23日 Bahnhof SBB Stadelhofen
<https://mehr-advent.ch>
- ・Wintermarkt ~12月23日 Teuchelweiherplatz, Winterthur
<https://www.winterthurenwintermarkt.ch/>
- ・Adventsmarkt Kloten 12月1~22日
<https://www.kloten-adventsmarkt.ch>
- ・Adventstürli Pfäffikon ZH 12月1~24日
<https://www.adventstürli.ch>
- ・Chlausmärt Fehraltorf 12月2日 <https://vv-fehraltorf.ch/>
- ・Christkindlimärt Rapperswil-Jona 12月7~23日
Altstadt, 8640 Rapperswil SG
<https://www.rapperswil-zuerichsee.ch/de/christkindlimaert>
- ・Weihnachtsmarkt Baden 12月13日 11:00~20:00
Kirchplatz, 5400 Bade <https://www.baden.ch/markt>

【チューリッヒ歌劇場】

www.opernhaus.ch

ラモー《プラター》

12月10、12、15、21、26、30日、1月10、12、14、16日

サイモン・キーンリーサイド リサイタル 12月7日(木)

ハヴィエル・カマレーナ リサイタル 1月18日(木) 19:00

ロッシェニ《アルジェのイタリア女》

12月30日、1月2、4、6、9日

マスネ《ウェルテル》1月19、23、27、31日

今月の必見!

【トーンハレ】

<https://tonhalle-orchester.ch>

12月4日(月) 19:30 サー・アンドラージュ・シフが弾くバッハ

1月18日(木) 19:30

ナガノ(指揮)、アリス紗良オット(ピアノ)他

1月21日(日) 17:00

ヤルヴィ(指揮) エストニア祝祭管弦楽団

1月24,25日(水) 19:30

ヨルダン(指揮) アーニャ・カンペ(ソプラノ)

今月の必聴!

●お仕事は？

私は現在チューリッヒ芸術大学修士課程のソリスト科にてピアノの勉強をしています。また普段はソリスト、伴奏者としてコンサートに出演したりピアノのレッスンも行っています。

●スイスに来るまでのお話

高校を卒業してフランスに渡り、パリ国立高等音楽院で勉強しました。パリには約5年間住んでいました。そして学士課程3年目の時にフランスの地方で行われた講習会でTill Fellner先生と出会いました。先生の素晴らしいレッスンに感動して、ぜひ先生と勉強を続けたいと思い、修士課程1年目の時に交換留学制度を利用してパリからチューリッヒにきました。先生はこれまでにパリ管弦楽団やベルリンフィルハーモニーとも共演されている、世界中を飛び回っているピアニストです。そんな先生のレッスンは毎回とても楽しくて、私の音楽観を広げてくださいます。

交換留学の1年間はとても充実していて、チューリッヒの街も気に入って、パリに帰りたくなくなりましたので、修士課程を正式にチューリッヒ芸術大学で始めることにしました。

●スイスにいらしてから/スイス生活は如何ですか？

街がとても穏やかで、また人々も優しく、とても過ごしやすいです。パリではメトロが遅れることなど普通だったので、時間通りに来る電車にはびっくりしました！

その反面、物価の高さや、物件探しにはとても苦労しました。

スイスは自然がたくさんで、本当に癒されています。学校が休みの時には、ハイキングに行ったり、去年のクリスマス休暇はツェルマットで過ごしたりしました。雄大な自然にいつも感動します！

KETTE

Vol.173

住村 奈緒 さん

(チューリッヒ在住)



●Teuscherさんとの出会い/フランチコンサート

10月7日にショコラティエのTeuscherがBahnhofstrasseに新しくcafe Felix 2をオープンしました。Globusのすぐ隣です。Teuscherさんは音楽が大好きで毎週日曜日に音楽家を呼んでフランチコンサートをされています。

そして今回、Felix 2のオープンに際してカフェに入れるピアノの選定をさせていただきお話を大学の学長からい

ただきました。実際にお会いして、ピアノ屋さんで候補のピアノの試弾、選定をしたりカバーを選んだりしました。選定の日には私が気に入ったピアノを即決されたのにはとても驚きました！

また、10月6日にはカフェのオープニングイベントで演奏をさせていただきました。新しいカフェはとても素敵な空間で、とてもリラックスできる場所でした。これから毎週日曜日にあるフランチコンサートに私もいくらか出演させていただきます。今のところ11月5日と12月17日を担当します。フランチコンサートはcafe Felix Bellevue (11:00から)、Felix 2 Bahnhofstrasse (13:00から)となっています。

●ご出身は？どんな所？

出身は広島県です。川が沢山あって空気も綺麗で時間の流れもゆったりです。小さい頃はよく休日におじいちゃんおばあちゃんと宮島に遊びに行ったりしていました！

●会員の方へのメッセージ

コンサート情報になりますが、12月4日に18:30からTonhalleの小ホールであるSurpriseコンサートに出演します。Schulhoffというジャズ作曲家がテーマになっていて、ピアノソロとサクソとのデュオで演奏します。19:30から大ホールである公演(Wayne Marshallソリスト/ガーシュウインのピアノコンチェルト)のチケットで入場していただけます。サクソはフランス人のSandro Compagnonで、国際コンクールでも入賞多数の、今フランスで1番期待されているサクソフォニストです！私自身ジャズの演奏会はとても珍しく、どんな演奏会になるか今から楽しみです。

お時間ありましたらぜひお越しください♪



編集後記

今号のテーマに合わせ、ゼクセロイデン広場のクリスマス・マーケットに行ってきた！ただ中を歩いて通り抜けるだけでもニコニコ顔になれます。我が家のお勧めは、夫が気に入った革製品のお店、そして「パンダのお店」！なんだ、それ？と、気になって試してみました。フワフワのナンのようなパンズに挟む中身は、豚肉かベジの茄子か、キムチ入りかを選べます。辛いのがダメな娘と半分こするために、キムチ入りのキムチ抜きを頼み、最後に、もったいないから「キムチは別にもらえますか？」と聞くと、入れ物がないから、とパンズをもう1つつけて、挟んでくれました！なんて親切！そして美味しい！ナブレのピザも、屋台なのに本格窯で、味も本格的！4つ切りでも食べやすく、路面店よりいいかも！オオキの坦々麺、肉まん、餃子もコロナ禍後、今年はお店していたので今度食べよっかな。皆様も楽しみながら、良いお年をお迎え下さい。(SN)

広告掲載のご案内

チューリッヒ日本人会 Japan Club Zurichでは、会員の方からのお知らせ・広告の掲載、フライヤー等の会報同封配送を、有料(一部無料)で随時受け付けております。詳細については編集部までお気軽にお問い合わせください。

伝言板コーナーをご利用ください

200文字以内のお知らせ・ご案内は無料で掲載いたします。掲載内容責任者のお名前(会員に限る)を入れた原稿を毎月10日までに編集部にてメールにてお送りください。

●JCZでは広告・フライヤー・伝言板の記載情報については責任を負いかねます。

JCZ会報誌エーデルワイス

2023年12月・2024年1月合併号

発行責任者：青砥 玄(会長)

編集：中 東生 阿部 牧子

ボツツィーニ直美

●編集部専用メールアドレス●

edelweiss@japanswiss.ch

チューリッヒ日本人会

JCZ Japan Club Zurich

Office of Honorary Consul

General of Japan

Utoquai 55, 8008 Zürich

www.japanswiss.ch

jczt@japanswiss.ch

